

平成28年度 社会教育情報誌

「きばっど」 南薩の社会教育



平成29年2月発

南薩地区社会教育振興会



平成28年度 社会教育関係者・団体表彰



1 PTA関係

【九州ブロックPTA協議会表彰】

- ・ 額娃小学校PTA (南九州市)

【県PTA連合会表彰】

- ・ 枕崎市PTA連絡協議会 (枕崎市)

【県PTA広報紙コンクール (平成27年度)】

- ・ 佳作 万世小学校PTA (南さつま市)
- ・ 佳作 別府小学校PTA (南九州市)
- ・ 佳作 南指宿中学校PTA (指宿市)
- ・ 佳作 県立加世田高等学校PTA (南さつま市)

【県PTA「たのしい子育てコンクール(三行詩)」】

- 【中学生の部】
- ・ 優秀賞 川畑 陽菜 (指宿市立山川中学校 1年)
- ・ 佳作 桑鶴 海良 (指宿市立山川中学校 3年)

【一般の部】

- ・ 優秀賞 満 定子 (指宿市立山川中学校PTA)

2 公民館関係

【県公民館連絡協議会表彰】

- ・ 山口 正典 (元枕崎市桜山地区公民館主事)
- ・ 野沢 幸子 (元枕崎市立神地区公民館主事嘱託員)

3 社会教育振興会関係

【社会教育功労者文部科学大臣表彰】

- ・ 中野 政道 (指宿市)

【地区社会教育振興会表彰】

- ・ 馬場畑末治 (指宿市)
- ・ 小園 藤生 (南さつま市)
- ・ 園田 邦子 (南九州市)

4 子ども会関係

【全国子ども会連合会表彰】

- ・ 福留子ども会 (南九州市)

【県子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・ 今村 隆 (南九州市)
- ・ 開聞ジュニア・リーダークラブ「パンビ」 (指宿市)

【優良少年少女団体表彰】

- ・ 牧園子ども会 (枕崎市)
- ・ 下原ボプラ子ども会 (指宿市)
- ・ 川畑校区子ども会 (南さつま市)
- ・ 佃子ども会 (南九州市)

【地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・ 茅野子ども会 (枕崎市)
- ・ 大山 (中) 子ども会 (指宿市)
- ・ 小湊校区子ども会 (南さつま市)
- ・ 手養校区子ども会育成連絡協議会 (南九州市)
- ・ 青矢 順子 (南九州市)

5 読書活動関係

【子どもの読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰】

- ・ 丹波小学校 (指宿市)

【優良読書グループ表彰】

- ・ おむすびの会 (枕崎市)

6 少年の主張鹿児島県大会

- ・ 優良賞 小原 葵和 (川辺中 3年)

7 地域が育む「かごしまの教育」県民週間ポスター・

原画・標語関係

【ポスター原画】

- ・ 学校賞 南九州市立大丸小学校

- ・ 優秀賞 川畑 小晴 (指宿市立川尻小学校 3年)
- ・ 特選 中村 優成 (南九州市立松ヶ浦小学校 1年)
- ・ 特選 国生 星来 (南九州市立清水小学校 1年)
- ・ 特選 瀬戸 麒大 (南さつま市立川畑小学校 2年)
- ・ 特選 君野 朱莉 (南九州市立大丸小学校 6年)
- ・ 入選 今村 優那 (南さつま市立川畑小学校 2年)
- ・ 入選 松藺 昊祐 (南九州市立大丸小学校 3年)
- ・ 入選 桐木平 歩 (南九州市立大丸小学校 4年)
- ・ 入選 下竹 大翔 (枕崎市立桜山小学校 5年)

【標語】

- ・ 学校賞 指宿市立北指宿中学校
- ・ 優秀賞 森 愛花 (指宿市立北指宿中学校 3年)
- ・ 入選 徳留 来夢 (南さつま市立万世小学校 2年)
- ・ 入選 諏訪下海聖 (南九州市立勝目小学校 3年)
- ・ 入選 久保愛衣夢 (南九州市立宮脇小学校 6年)
- ・ 入選 高吉 圭祐 (南九州市立額娃中学校 1年)

8 「家庭の日」絵画・ポスター・標語関係

【最優秀学校賞】

- ・ 南九州市立清水小学校

【優秀学校賞】

- ・ 南九州市立中福良小学校

【絵画の部】

- ・ 最優秀賞 寶満 なぎ (枕崎市立枕崎小学校 1年)
- ・ 優秀賞 ヴァッセル・コハリ (南九州市立清水小学校 2年)
- ・ 優秀賞 湯田 善智 (南九州市立中福良小学校 2年)
- ・ 優良賞 上野 愛奈 (南九州市立清水小学校 1年)
- ・ 優良賞 大坪 芽生 (南九州市立清水小学校 2年)
- ・ 優良賞 俵積田くるみ (枕崎市立別府小学校 3年)
- ・ 優良賞 籠原 裕太 (枕崎市立桜山小学校 4年)
- ・ 優良賞 長尾 由奈 (指宿市立川尻小学校 4年)
- ・ 優良賞 入野 健盛 (指宿市立開聞小学校 5年)
- ・ 努力賞 国生 星来 (南九州市立清水小学校 1年)
- ・ 努力賞 宮路 孜昂 (南さつま市立益山小学校 1年)
- ・ 努力賞 豊田 美香 (南九州市立中福良小学校 2年)
- ・ 努力賞 入野 美理 (指宿市立開聞小学校 3年)
- ・ 努力賞 前田 花夏 (枕崎市立桜山小学校 3年)
- ・ 努力賞 若林 沙羅 (南九州市立中福良小学校 3年)
- ・ 努力賞 小吉 尊 (指宿市立丹波小学校 4年)

【ポスターの部】

- ・ 優秀賞 籠原 愛珠 (枕崎市立桜山小学校 6年)
- ・ 優秀賞 蓮子 乙葉 (南九州市立別府中学校 3年)
- ・ 優良賞 名越 陵真 (南九州市立中福良小学校 6年)
- ・ 優良賞 恐田 梨桜 (枕崎市立桜山中学校 1年)
- ・ 努力賞 西野 優汰 (南さつま市立田布施小学校 6年)
- ・ 努力賞 田代 帆夏 (枕崎市立桜山中学校 1年)
- ・ 努力賞 杖谷 理子 (指宿市立南指宿中学校 2年)

【標語の部】

- ・ 最優秀賞 森田 叶人 (南さつま市立加世田中学校 1年)
- ・ 優秀賞 佐多 瑛 (南九州市立中福良小学校 1年)
- ・ 優良賞 楠 竜弥 (枕崎市立立神小学校 5年)
- ・ 努力賞 衛藤 星珂 (南九州市立松山小学校 1年)
- ・ 努力賞 東 壱成 (南九州市立青戸小学校 6年)

9 文化財関係

【県文化財功労者表彰】

- ・ 上山田太鼓踊り保存会 (南九州市)



家庭の教育力の向上

地区社会教育委員研修会

10月7日（金）指宿市中央公民館で、各市社会教育委員、各市教委生涯学習・社会教育担当者等が参加して研修会が行われました。その中のグループ協議では、地区社会教育研究会のテーマである「つながりの構築と関係団体等の連携・協働による地域ぐるみの家庭教育支援」について、これまでにないワールドカフェ方式で協議を行いました。このワールドカフェ方式というのは、本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、テーマに集中した話し合いができます。自分の意見を言いやすい、相手とのつながりを意識できる、参加者全員の意見や情報の共有ができる等の効果があります。



協議のサブテーマを「5年後の子どもたちはどのような暮らしをしているのでしょうか」とし、7班に分かれて話し合いました。それぞれが自分の考えや思いを付箋に書いたり、模造紙に直接書き込んだり、とても活発な話し合いが行われました。その後、一人一人が話し合いのキーワードをあげ、そのキーワードに取り組んでいくことを出してもらいました。「子ども会や地域活動の中で、子どもと接する機会をもつ」「地域の中でみんなで子どもを育てる」「親に子どものよさ（頑張っていること）を伝える」「親学・親の学び・親の教育が重要である」「子どもと遊ぶ時間や話す時間を増やす」「子どもへの声掛け、挨拶を進んで行う」「周りの親子に明るく笑顔で声掛けする」「子どもの前で、地域の中で、元気に明るくおはようの挨拶をする」「子育て中の親との会話を積極的に行う」「本物を体験させる」「体験が人を育てる」「近くの方々とのつながりを大切にする」「最終的には親子の絆が大事である」等、できることから取り組んでいきましょう。

各社会教育委員の方々をはじめ、関係団体等の連携・協働による地域ぐるみの家庭教育支援が、今後より一層充実するとともに、それぞれの家庭の教育力がより一層向上することを期待しています。

県PTA研究大会(南薩大会)

10月22日（土）川辺文化会館ホールで、PTA関係者約650人が参加して開催されました。大会は、全体会でのパネルディスカッション及び4つの分科会で行われました。分科会の中の第3分科会が「家庭教育」で約260人が参加しました。協議題が「親子の絆を深め、基本的な躾や生活習慣等を身に付けさせる家庭教育」で、枕崎市立立神小学校からは、「親子の絆を深め、心豊かでたくましい子どもを育てるPTA活動～学校・家庭地域のより一層の連携を図りながら～」と題して、提言が行われました。

活動の実際として、早寝・早起き・朝ごはん、「一の日運動」（月3回）の開催、ノーメディアデーの取組、枕崎港まつり「総踊り」への参加、地域と連携を図った活動について発表がありました。それらの中で、ノーメディアデーの取組を通して親子のふれ合いが増えた、特に父親の子どもへのかかわりが多く見られるようになった、子どもの読書量も増えてきた等の成果をあげていました。また、様々な活動を通して、これまで以上に親子のかかわりが増えるとともに、各家庭が子どもの成長を温かく見守り、励ます姿勢が高まってきたようです。

今後、第3分科会の提言や出された意見等をそれぞれの家庭教育の参考にしてほしいと思います。



青少年教育の充実

地区子ども会大会、育成者指導者研修会

6月18日（土）開聞総合体育館で、地区内の小・中学生及び育成者・指導者等約250人が参加して開催されました。他の子ども会活動及び育成者の模範となる功績をたたえ、本年度は、4子ども会〔茅野大山(中)、小湊、手蓑〕と1個人（青矢順子氏）が表彰されました。その後、小湊子ども会（南さつま市）手蓑校区子ども会育成連絡協議会（南九州市）東本町子ども会（枕崎市）大山（中）子ども会（指宿市）が、元気よく活動発表を行いました。それから、子どもたちは体育館メインアリーナでドッジビー（ニュースポーツ）をして、気持ちのいい汗を流しました。



表彰式

育成者・指導者へは、あそびうたサークルぱすてる代表の海江田宏氏に、「つながりあそび・うたの実践から学ぶこと～子どもたちへ、そして子どもたちから～」と題して講演していただきました。育成者・指導者の皆さんが、手子をしたり、歌を歌ったりしている姿がとても印象的でした。



表彰者



活動発表



ドッジビー



講演

北薩・南薩地区ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流大会

7月30日（土）・31日（日）の一泊二日、薩摩川内市立少年自然の家において、北薩及び南薩地区内の中高校生80人が参加して開催されました。（大会は北薩と南薩の交互で、昨年度は県立南薩少年自然の家で実施）今回の大会テーマは「Link Smile Peace ～全員が 笑顔でつながり 友情を築こう～」でした。活動1は、「アイスブレイクに始まり班別役割分担・キャンプファイヤー等の係決め」、活動2は、「仲間づくり・レクリエーション」で、みんなと楽しく打ち解け合い、活動3は、「キャンプファイヤー」で、共に火を囲み、友情を深め合いました。活動4は、たくさんの人との交流を深めることによりお互いをもっと知るという目的で「語ろう会」を行いました。話合いカードに記入（自己紹介、好きな人、生まれ変わるなら、人との交流で大切にしていること）されたことをもとに、話が盛り上がりました。

活動5の「思い出創作活動」では、それぞれが思い思いのオリジナルのキーホルダーができ上がりとても喜んでいました。この大会で学んだ様々なことを、今後、学校や家庭・地域等の中で大いに生かしてほしいと思います。（充実した2日間に感動！）



レクリエーション



キャンプファイヤー



閉会



語ろう会



キーホルダー

人権教育の充実

地区社会教育・文化財・社会体育行政研修会

5月2日（月）枕崎市市民会館において、地区内の各市教育局委員会社会教育・文化財・社会体育の行政担当者等60人が参加して研修会が行われました。全体会では、「平成28年度県・地区の重点施策」について、南薩教育事務所の担当から説明がありました。その後、「社会教育」「文化財」「社会体育」の3分科会別に、各市からの提出資料をもとに熱心な協議が行われました。



人権教育講演会は、県教育庁人権同和教育課長の常深透氏に、「あなたのキラリにびっくりポン〜キラリでつなぐ南薩の輪〜」と題して講演していただきました。演題の「キラリ」とは、人それぞれがもつ『よさ』＜個性、長所・短所＞であり、「びっくりポン」とは、感動し、本気で認めること＜承認・称賛・激励＞とのこと。Q&Aも取り入れながらの講演でした。「とても分かりやすい内容で、改めて人権について考えることができた」「ユーモアの中に人権教育に関する内容をちりばめた素晴らしい講演でした。自分のキラリもたくさん見つけていきたい」等の感想が寄せられました。

地区PTA役員研修会及び人権教育ブロック別指導者研修会

7月6日（水）指宿市開聞総合体育館において、地区及び各市PTA連絡協議会の役員等、各市高齢者クラブ代表、社会教育関係職員等178人が参加して研修会が行われました。今回は、人権教育の普及及び啓発を広く図るために、PTA役員以外の高齢者クラブ代表の方々の参加も呼び掛けたところです。

研修Ⅱでは、部落解放同盟鹿児島県連合会執行委員長の山口武文氏に「生きる」という演題で講演していただきました。「人間の基準は、どう生きているかである。という言葉が心に響きました」「日頃何気なく使っていた言葉が差別用語だったとハッとしました。言葉で人を傷つけることの重大さを再度、見つめ直したいと思いました」「人の生き方として最善を尽くすことが大事だという話に感銘を受けました。私自身も最善を尽くし、人から尊敬されるような生き方をしたいと思いました」等の感想が多かったです。研修Ⅲでは、「人権教育における参加型学習の実践」の演習が行われました。緊張感をほぐすアイスブレイキングから始まり、アクティビティ・シェアリングと流れていきました。「参加型学習は、分かりやすく楽しかったです」「物の見方を変えて考えることは大切だなと思いました」等の声が聞かれました。



活力ある地域づくり

地区自治公民館経営研究会

9月2日（金）ふれあいかせだ いにしへホールで各市民館関係者・社会教育関係者203人が参加して研究会が行われました。今回のテーマは、「地域の絆と郷土愛を育む自治公民館の在り方について」でした。研究協議では、最初に、枕崎市田布川公民館の沖園強・上迫正幸氏が「共同活動が育む地域の絆と郷土愛」と題して、未耕作地や水路、農道の管理作業、地域の課題を知るワークショップや先進地研修、子供たちも参加する地域ぐるみのコスモス植栽や鬼火焚きの活動等について事例発表されました。その後は、発表に対する質疑・意見交換等が熱心に行われ、実のある研究協議でした。



講演は、県コミュニティづくり推進協議会推進委員の松下尚明氏が、「魅力ある自治公民館活動へ『あと一歩』〜地域の絆と郷土愛を育むために〜」と題して、「人が活動に魅力を感じ、絆を感じるとき」「活動活発化の条件」「自治公民館活動とは何か」等について、具体例をあげながら、また方言も交えながら大変分かりやすく話してくださいました。「面白半分・真面目半分でやる、飲ん方が大事、前進反応する真友をつくりあげていく、できることから・できる時に・できる人がやる、子ども会を育てることが地域づくり」等、貴重なキーワードが随所に盛り込まれ参加者から大好評の素晴らしい講演でした。

文化財の保存・活用

地区文化財保護審議会委員等研修会



6月1日(水)南さつま市民会館において、地区文化財保護審議会委員等研修会が開催されました。各市の文化財保護審議会委員、県文化財保護指導委員各市文化財行政担当者等41人が参加し、文化財の保存・活用の充実について研修を行いました。

午前中は、指宿市の恵島瑛子技師と上野景俊委員の研究・事例発表「指宿まるごと博物館構想と開闢地域のまちあるきの実践」

を踏まえ、また、各市の文化財の保存・活用の充実等について協議を行いました。



その後、午後の現地研修に先立ち、南さつま市教委の永田正人参事に、「加世田麓と島津忠良日新公」の文化財紹介をしていただきました。

午後からは、県教育庁文化財課の講話「平成28年度文化財保護行政の重点施策等について」と現地研修を行いました。

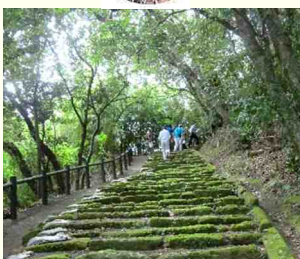
当日は小雨模様でしたが、現地研修時は雨も上がり市民会館から歩いて加世田麓の文化財を見ながら竹田神社へと向かいました。参加者が3班に分かれて、それぞれの文化財について加世田いにしへガイド3人から詳しく説明していただきました。午前・午後とも充実した研修会でした。



地区「指定文化財」巡回視察

9月13日(火)、県文化財保護指導委員、各市文化財行政担当者、南薩教育事務所員の15人が参加して、枕崎市の文化財を視察しました。4市(枕崎市・指宿市・南さつま市南九州市)を輪番で行っています。この視察の趣旨は、「管内の市教育委員会が管理している指定文化財の保護・活用の実態を把握し、個々の課題について共同研究を行うことにより、文化財の保護・活用に資する」というものです。今回の視察の主なものとして硫黄山岩崎寺跡、小園の田の神、喜入氏累代の墓、桜之城跡城山の梵鐘、田布川の田の神、大山祇神社、大山祇神社の太鼓・面、連歌両詠大冊「萬句賀親乾」、小説「播磨相原」「捨小舟」を視察しました。

枕崎市教委文化課の担当者・ボランティアガイドから詳細な説明を聞き、貴重な文化財の価値を再認識するとともに、文化財を保護・活用することの大変さを改めて知る機会となりました。





枕崎少年の船の取組

6月26日（日）に枕崎市少年の船が実施されました。

今年で34回目の実施で、今回、92人が参加しました。

明治28年、漁に出ていた枕崎のかつお船は暴風により大変な被害を受けました。遭難者の大部分が黒島に流れ着き、黒島の方々は遭難者の救出などに一生懸命尽くされました。この海難事故を「黒島流れ」と呼んでいます。

少年の船は、児童生徒や子ども会、各学校の指導者及び一般市民が枕崎市の歴史や祖先の偉業について理解を深めるとともに「黒島流れ」での黒島の方々への感謝の心を育み、併せて心豊かでたくましい青少年の育成を目的としています。

洋上慰霊祭では全員が菊を献花し、黙とうを捧げ、犠牲者の冥福を祈りました。また、船内では「黒島流れ」の紙芝居をDVDにまとめたものを視聴し、「黒島流れ」の学習をしました。

黒島では片泊小・中学生、島民に迎えられ、今年はジャンベというアフリカの打楽器と日本の和太鼓のセッションなどで交流を深めました。今後も、黒島の方々への感謝の気持ちを忘れず、続けていきたいです。



船上での献花の様子



ジャンベと和太鼓による子どもたちの交流

わくワーククラブの取組

枕崎市立図書館では、

わくわく楽しみながら、図書館の仕事（ワーク）を体験する「わくワーククラブ」が大活躍しています。「わくワーククラブ」は仕事の体験だけでなく、クラブ活動を通して様々な学校・学年の児童・生徒が交流し、情報交換をすることで本に対する興味の幅を広げ、各々の読書活動を促進することも目的としています。

現在、小学生12人・中学生2人・高校生3人合計17人で構成され、毎月1回午前か午後に3時間活動しています。

活動内容はカウンターでの返却作業、返本作業や書架整理、

図書館講座への参加や行事の手伝いなどです。

その他にも七夕飾りの制作、季節に応じた壁面飾りの作成、読書週間中に配布する本のしおり作成など、毎回楽しく活動しています。



カウンターでの返却作業



七夕飾り制作



読書週間に配布するしおりの作成



指宿市の取組

指宿市生涯学習フェスティバル

指宿市では、「学習成果や活動発表を見聞することで、今後の各自の学習活動を考える機会とし、潤いと活力に満ちたことを目的に毎年11月に生涯学習フェスティバルを開催しています。今年度の特徴ある取組を紹介します。

「市民講座の体験教室」：ペン習字・中国語・リトミック・ヨガなど、当日限定の市民講座を実施し、来場者が気軽に受講できるようにしました。参加者から「興味があっても踏み出せなかった一步を踏み出すきっかけになった」「実際に自分が体験でき、教えて頂いて楽しかった」という声が聞かれました。生涯学習への参加のきっかけづくりとなりました。

「社会教育関係団体の事業参画」：女性連や生活学校、ジュニア・リーダークラブ、成人式実行委員会が団体PRのブースを出展し、青年団はおばけ屋敷を行いました。参加者の動員や各団体のPRの機会となり、双方にとって良い効果がありました。特に青年団のおばけ屋敷は行列ができるほどの人気で、100人以上の子どもたちが参加しました。

「指宿市立図書館との連携」：「読書」をテーマに中高生ビブリオバトルやかごしま弁を使った催し、読書シンポジウムなどを実施しました。特に中高生ビブリオバトルが好評で、「中高生の発表が素晴らしかった」「自分の言葉で本を紹介する様子に本を読みたくなった」という意見が寄せられました。中高生の読書活動やその思いを伝える機会となり、参加者の読書推進のきっかけになりました。

今後も生涯学習に熱意をもつ関係者が集まり、お互いに交流し、学びや気付きを得て、これからの活動の動機付けを得られる事業になるよう、企画・運営していきたいと考えています。



ペン習字の体験教室



3人の中高生によるビブリオバトル

指宿まるごと博物館による伝統行事・郷土芸能の記録保存と伝承活動

指宿市教育委員会が平成28年3月に策定した指宿市教育大綱の「施策の重点事項」には、「指宿まるごと博物館を活用した人づくり」が示されています。また、今後5年間の指宿市教育振興基本計画の「地域文化の継承・発展」には、各地域の郷土芸能と伝統行事の保存・継承の方策と、それらの記録保存のための動画による記録化、また、それらを市民に広く周知することが、これからの施策の方向性として位置付けられています。



ちょいのちょい（小牧）



上野猿の子踊り（開聞上野）



作成したDVDと冊子

そこで指宿市では、指宿まるごと博物館実行委員会と連携し、文化庁補助事業を活用して、平成26年度から平成28年度までの3か年で市内各地の文化遺産である36の郷土芸能と10の伝統行事、75の有形文化財の記録映像を撮影しました。また、その記録映像を基に、幅広い年齢層を対象とした生涯学習の素材として、各郷土芸能保存会による継承活動の促進や市民や観光客への普及啓発での活用を目的に、約20分前後の短編にまとめたDVDと冊子を作成しました。それらには、各郷土芸能の由来や継承団体、衣装、道具、踊り方、歌詞等が分かりやすくまとめてあります。

指宿市に継承されている郷土芸能や伝統行事には、児童・生徒がその担い手や主人公になっているものがあります。例えば、指宿市指定文化財の「下門猿の子踊り」や「利永琉球傘踊り」をはじめ、「脇浦古琴節」、「谷村手拍子踊り」、「上野猿の子踊り」、「新西方棒踊り」、「ちょいのちょい」、伝統行事の「サンコンメ」や「ダセッチ」などです。

現在、時遊館COCOはしむれの学芸員が郷土教育をテーマにした出前授業を年間のべ15回前後実施しています。今後、作成した郷土芸能や伝統行事、有形文化財のDVDや冊子を活用した授業等を行い、自分たちと同世代の子どもたちが、地域の郷土芸能や伝統行事の担い手であることを知ってもらうことで、ふるさと指宿が大好きで誇りに思える「いぶすきっ子」の育成と、「ふるさと教育」の推進が図れます。

今後も「指宿まるごと博物館」を生かした青少年健全育成活動を推進していく予定です。



今年もやりました！ 図書感謝

11月20日（日）、南さつま市立中央図書館において、第2回「図書感謝祭」を開催しました。「図書感謝祭」は、南さつま市立図書館スタッフ全員が集結して作り上げる図書館の一大イベントです。オリジナルバッグや豆本作り、松ぼっくりアートなどのワークショップには、たくさん子どもや保護者の参加があり、賑やかな雰囲気の中でそれぞれ素敵な作品を作っていました。また、今回初の試みだった図書館バザーでは、たくさんの方が思い思いにお買い物を楽しんでいました。

そして、感謝祭のメインは図書館コンサート！「鹿児島カンマー・フィルハーモニー弦楽四重奏団」による弦楽四重奏の生演奏と、尚蘭さんによる日本舞踊が見事に融合し、約170人の観衆を素敵な空間に誘いました。演奏終了後には、カンマー・フィルハーモニーの皆さんの「おすすめ本」を紹介する場面も見られ、図書館ならではのコンサートとなりました。

終日多くの人で賑わったこのイベントをきっかけに図書館をより身近に感じていただけたらと思います。図書館が人と本とをつなぐ場所であり続けることはもちろん、今後も様々なイベントを企画し、地域の拠り所となるような図書館づくりを目指していきます。



〈オリジナルバッグ作り〉



〈図書館コンサート〉

好評です。各地域での自主文化事

多彩な公演等を行うことで市民に質の高い芸術鑑賞の機会を提供したり、また文化団体の出

演・展示機会を提供したりすることで発表機会を創出して芸術文化の振興を図るとともに、市内のセンター・ホールの活用も図ることを目的に自主文化事業を例年複数回行っています。

平成28年度は、まず、6月28日（火）に笠沙自然休養村管理センターにおいて、子ども芸術鑑賞会「いっしょにあそぼ！」を開催しました。おはなしやうた、手あそびやビンを使った演奏などに子どもはもちろん大人も目を輝かせ、会場は笑顔にあふれていました。

次に、10月10日（月・祝）にふれあいかせだいにしへホールにおいて、ピアノとソプラノによる「いにしへの風コンサート」を開催しました。満員の来場者はプロの演者による演奏や歌声に酔いしれるとともに、終盤の童謡数曲は演者と一体となって感動の中歌い上げていました。

他には、10月に坊津で開催されたミニライブ&トークショー、平成29年1月に大浦での鹿児島弁で演じる喜劇、3月に金峰で県内太鼓4団体の競演を開催しました。

また来年度も、2～3の公演は決定しており、さらなる実施に向け模索しているところです。

事業の運営も、各地域の文化協会から選出された実行委員を中心に自主的に行っており、入場料も市からの補助金を活用して全公演とも均一にすることで、観覧しやすい環境にしています。

これからも、先に掲げた目的が達成するよう、観客も運営する人たちも笑顔あふれる自主文化の事業を続けていきたいと考えています。



子ども芸術鑑賞会
「いっしょにあそぼ！」



「いにしへの風コンサート」



家庭教育支援リーフレット～みんなで育てよう南九州っ子～

家庭は、教育の原点であり、子どもの教育についての責任は、まず家庭にあります。しかし、時代の変化や社会がグローバル化する中で、子育てや家庭教育については、不安や心配等が増えてきています。そのような子育て中の保護者の皆様の一助になるよう、南九州市民みんなで支援する家庭教育を目指して、南九州市社会教育委員の会議（本市社会教育委員 21 人）で家庭教育支援リーフレットを作成しました。本リーフレットは、作成に係わった方々の思いが詰まったものになっています。2 年間の協議を重ね、平成 28 年 4 月に市内全戸、学校、事業所等に配布し、地域社会全体で家庭教育を支援し、子どもの健やかな成長を実感できる南九州市を目指します。

“帰りたい家庭 行きたい学校 住みたい地域”を掲げ、裏面ではそれぞれの役割を提示しています。「地域」については、PTA や学校行事に参加しやすい職場環境づくりや、子育て世帯への積極的な声掛けなどを呼び掛けています。表面では、平成 28 年 4 月に開設した南九州子ども相談センターなどの案内や、子育てサロン、南九州市市民憲章、主な年間行事も紹介しています。

少子高齢化する中で、本リーフレットの活用を通して、地域社会全体で子育てを支援しようとする気運を高め、地域の活性化へとつなげていければと願っています。



リーフレット表面（A3 三つ折り）

南九州市各種女性団体連絡会の取組

平成 22 年 6 月に市内の女性団体が結集し、南九州市各種女性団体連絡会がスタートしました。それぞれの団体の活動を基本として、団体相互の連携を深め、女性の資質の向上、地域の福祉の増進、文化の向上等、地域の力として寄与することを目的としています。今年度は 19 団体、会員数 2,363 人です。

平成 28 年 2 月 21(日)に第 1 回南九州市女性大会を開催し、244 人が参加しました。3 地域（頰娃・知覧・川辺）代表の活動発表、アトラクションではハーブとフルーツによるミニコンサート、講師に NPO 法人頰娃おこそ会観光プロジェクトリーダーの加藤潤氏をお招きし、『老若男女で取り組む地域総力戦のまちづくり～頰娃での取組～』の演題で御講演いただき盛会に終えることができ、会員の意識統一が図られました。参加者からは、「学びのいい機会となりました。」との感想が多く寄せられました。

10 月 16 日（日）には本会として初めてボランティア活動を計画し、頰娃の瀬平公園周辺の海岸清掃活動を行い、海岸も心もすっきりした気持ちで終えることができました。

11 月 23 日（水・祝）には恒例のスポーツ交流会を開催し、13 団体 79 人が参加し、グラウンドゴルフを楽しみました。スポーツ交流会を通して、会員の親睦を図り、交流が深まっています。

今後も他団体と連携しながら団体相互の連携を深め、地域に根差した活動を続け、地域づくり、人づくりに努めていきます。



第 1 回南九州市女性大会



ボランティア活動



スポーツ交流会

枕崎市

いおうやまいわさきでらあと 硫黄山岩崎寺跡

H16.9.2 市指定

創建の年代は明らかでないが、一乗院（坊津）の直末寺で真言宗の古い寺であった。山号を硫黄山といい、寺領四石の寺であったという。西征將軍懷良親王の副将日野中納言邦光卿が興国3年(1342)故あってここに流謫されたが、その落胤が篠原家の祖先といわれる。また、文禄3年(1594)坊津に配された左大臣近衛信輔卿もこの岩崎寺にたびたび足を運ばれて住持



と語り、鹿籠八景の和歌も残された。卿が詠まれた鹿籠八景の次の二首は、岩崎寺を歌ったものである。

- ・夕立に風吹きくれば深浦の波に江ならじひとむらの鐘
- ・明けぬれば人をかえせと泣くからはわれもかえれと古寺の鐘

明治2年神仏分離令により廃寺となり建物はなくなったが、古寺関係者の墓碑石塔類が十数基残っている。

指宿市

いぶすきはしむれがわいせき 指宿橋牟礼川遺跡

T13.12.9 国指定

平成28年、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡は大正5年に発見されてから100年を迎えました。大正7年には京都帝国大学の濱田耕作博士によって発掘調査が行われ、縄文土器と弥生土器が大量に出土しました。当時の日本では、縄文土器と弥生土器の違いは、別々の民族が使っていたため形や模様が違うと考えられていました。しかし、濱田博士の発掘調査によって開聞岳の火山灰層を挟んで下の層から縄文土器、上の層から弥生土器が出土したことから、2つの土器の違いは民族の違いではなく、“時代の違い”ということが日本で初めて証明されたのです。現在では常識となっている「縄文土器は弥生土器より古い」ということは、橋牟礼川遺跡の発見・発掘によって明らかになりました。

日本史を大きく変えた橋牟礼川遺跡。その後も都市整備事業によって昭和50年代～平成5年にかけて大規模な発掘調査が行われ、開聞岳の火山灰

に覆われた平安時代の畠の跡や南九州で最大規模の古墳時代のムラが姿を現しました。今では約4.4haの範囲が国指定史跡に指定され、その一部は復元古代住居や貝塚展示場などが整備され、史跡公園として公開されています。平成8年には、遺跡の重要性や指宿市の歴史を紹介するために遺跡に隣接するかたちで「指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ」が開館しました。発見から100年経っても日本史に与えた影響は今でも色褪せず、私たちに太古の人々の暮らしを伝えてくれます。



橋牟礼川遺跡公園からみた指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ

南さつま市

きゅうあじさか け じゅうたく

旧 鰺坂家住宅

H25.6.21 国登録

近世加世田麓の中心地近くに残る旧鰺坂家住宅は、明治後期に建築された武家住宅です。木造瓦葺平屋の建物で、南側に設けられた玄関から入ると、次の間、座敷の二間へと続きます。北側には三間、西側には昭和後期に解体された土間をもつ一間が配置され、建坪の大きい造りとなっています。室内の壁は当時流行したべんがら色に仕上げられ、繊細な細工の欄間や夏目漱石の小説「吾輩は猫である」の装丁作家としても有名な日本画家橋口五葉の手による小襖絵などで装飾され、室内は華やいだ中にも落ち着きのあるたたずまいです。このほか、土蔵や武家門、石塀などとともに加世田麓の武家住宅形式を今に伝えています。老朽化が進んでいましたが、南さつま市により公有化されたのちの平成 25 年 6 月に国登録有形文化財となり、保存及び活用が図られています。旧鰺坂家住宅の庭部分は 8 時半から 17 時まで自由に観覧できます。また、南さつま市教育委員会生涯学習課に御連絡いただければ、室内も観覧できます。



南九州市

ごんげんどうけつ

権現洞穴

S29.5.24 県指定

権現洞穴は川辺町上山田の君野集落にあり、一帯は権現谷と呼ばれています。周辺の山地は、四万十累層群という砂岩・頁岩で出来ており、その上に約 10 万年前に噴出した阿多火砕流堆積物が裾野を囲むように広がっています。

この洞穴は、火砕流堆積物である溶結凝灰岩に雨水が浸み込んで、下層にある硬い砂岩・頁岩との境界を地下水として流れたために、柔らかい溶結凝灰岩は底から侵食されていき、それが拡大して洞窟になったと考えられています。洞穴の入口は、幅約 2m、高さ約 1.3m の大きさです。



洞穴の入口

中は奥行きが約 41.5m ありますが、奥の方は崩れてふさがっており、以前はより長かったものと思われます。また内部には、人の手によって広げられたような場所があり、近くから縄文土器や石斧、石鏃などが発見されています。したがって、縄文時代には、住居として使われたのではないかと考えられています。

現在、入口近くには、県指定文化財になったことを記念して鳥居が建てられ、洞穴の中には、君野家の氏神である石の祠があります。